

森づくりを始めて20年、 こんなことがありました！ ～尼崎21世紀の森づくりのあゆみ～

尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちへ再生するため「尼崎21世紀の森構想」が策定されてから20年、環境改善など、様々な取り組みが多様な人々によって行われてきました。その一部をご紹介します。



地図は明治31年のもの。江戸期は新田開発による米、綿花、菜種の栽培が盛んでしたが、明治後期以降は新田への工場立地や海岸の埋め立てが進みました。

※1

平成の時代に入り、工場による公害は企業や地域の努力により解消される一方で、阪神・淡路大震災の影響や産業構造の変化による工場の移転など、地域活力の低下が新たな問題として出てきました。このような背景から、尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、「森と水と人が共生する環境創造型のまち」の実現に向けて、21世紀100年に渡る長期の取組として、県民、企業、団体、行政等が共に進める「尼崎21世紀の森構想」が、平成14年3月に策定されました。



※2

森構想の対象エリア

江戸時代

尼崎臨海地域は、古くは茅渚(ちぬ)の海、あるいは琴浦と呼ばれ、白砂青松の美しい海岸が連なっていました。江戸時代には天守閣を持つ尼崎城の城下町として栄え、歌川貞秀画「西国名所之内 尼崎大物の湊」では、大阪の天保山沿岸から尼崎城下町の間を帆船が行き交うようすが描かれています。



※2

明治時代

昭和40年代



※2

高度経済成長期を迎え、工業化が進むとともに美しい海辺の自然環境の喪失、公害の発生など、環境問題の深刻化が進みました。

平成初期

森構想 20年の取り組み

「尼崎21世紀の森構想」策定 2002 (H14)

尼崎鉄工団地ですき間緑化開始 2003 (H15)

鉄工団地の理事長の声掛けから活動が開始。10年後には国土交通大臣賞を受賞、養蜂などの活動にも広がっています。



森びらきイベントの開催 2006 (H18)

尼崎の森中央緑地の一部開園とはばタンアリーナの竣工にあわせて、「尼崎21世紀の森びらきオープニングイベント」を開催。

のじぎく兵庫国体の会場に！

平成18年、兵庫県を会場として開催されたのじぎく兵庫国体。尼崎スポーツの森が会場のひとつとなり、競泳やシンクロナイズドスイミングといった競技が行われました。



北堀チャネルベースオープン 2012 (H24)

北堀チャネルベースとあわせて運河まちづくりの拠点としてオープン。運河〇〇クラブによる管理、環境学習などの受入れのほか、現在は CANAL FRIDAY などのにぎわいイベントも展開されています。



「森の会議」第1回を開催 2014 (H26)

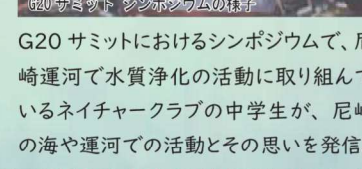
いろいろな立場の人たちが集まって森についての活動を考えるための会議がスタート。毎月開催され、これまでの開催回数は100回以上！

尼崎モリニックの開催 2016 (H28)

森の会議から生まれたイベント、尼崎モリニックの第1回が中央緑地で開催されました。

循環をテーマに世界へ発信 2018 (H30)

G20 サミットにおけるシンポジウムで、尼崎運河で水質浄化の活動に取り組んでいるネイチャークラブの中学生が、尼崎の海や運河での活動とその思いを発信。



※4

尼崎の森中央緑地(第1工区)オープン

尼崎21世紀の森構想のリーディングプロジェクトとしてオープン。はばタンアリーナ50など、尼崎スポーツの森とはじまりの森のエリア(6.6ha)を一部開園。



水質浄化施設オープン

尼崎の豊かな海づくりに向け整備。二枚貝や藻などの海の生物の力を借りて、運河の水を浄化する、日本で最先端の施設。



中央緑地パークセンターオープン

大芝生広場オープン

大芝生広場がオープンして、様々なイベントが開催されるようになりました。



中央緑地かやぶき民家の移築完了

18世紀後半、芦屋市に建てられた住宅を移築。畑も整備され、里山の暮らし体験ができる施設に生まれ変わりました。



中央緑地の将来イメージ

中央緑地での森づくりは途中。公園整備や100年の森づくりはまだまだ続きます！

中央緑地での森づくり



中央緑地整備前(平成8年)

中央緑地の整備前。製鉄所跡地は木一本も生えていない広大な空き地に。



植樹前(平成18年)

「はじまりの森」の植樹前。阪神高速道路まで見通せる草地でした。ここに地域種の苗を植樹して、森を育ててはじまりました。



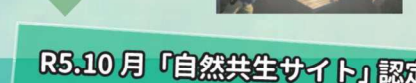
9年後(平成27年)

森らしい形になってきました。間伐などの手入れも行いながら、環境学習などでも活用されるようになりました。



16年後(令和4年)

森の成長にあわせて、間伐材の循環利用や森の環境をいかしたイベントなど、森の活用も進んでいます。



R5.10月「自然共生サイト」認定!!

「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省が「自然共生サイト(OECM)」として認定する制度が令和5年度から始まりました。世界的な目標「30by30」(2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標)の達成を目指すものです。